

会 議 記 録				
会議の名称	京都スタジアム（仮称） 検討特別委員会（協議会）			会議場所 全員協議会室
				担当職員 鈴木
日 時	平成29年3月23日（木曜日）			開 議 午後 2時00分
				閉 議 午後 3時19分
出席委員	◎木曾 ○藤本 三上 山本 平本 福井 齊藤 菱田 小島 馬場 明田 石野 <湊議長>			
出席者	【京都府文化スポーツ部】稲垣副部長、中島理事 [スポーツ施設整備課]山本課長、渡辺副課長 【まちづくり推進部】桂部長、竹村事業担当部長 [都市計画課]関口課長 [都市整備課]笹原課長、山内区画整理担当課長 [政策交通課]伊豆田課長			
事務局出席者	門事務局長、山内次長、鈴木議事調査係長、三宅主任、池永主任			
傍 聴	市民10名	報道関係者1名	議員7名（酒井、富谷、小川、奥村、奥野、竹田、西口）	職員1名 （財政課浦課長）

会 議 の 概 要

14:00

1 開議（木曾委員長あいさつ）

日程説明

[事務局長 説明]

2 案件

（1）京都スタジアム（仮称）の設計概要（案）について

<木曾委員長>

本日は、京都府の文化スポーツ部に出席いただき、京都スタジアム（仮称）の設計概要（案）について、説明を受ける。説明の後、質疑を実施する。

[京都府文化スポーツ部、亀岡市まちづくり推進部 入室]

[京都府文化スポーツ部副部長 あいさつ]

14:03

[京都府スポーツ施設整備課長 説明]

14:32

[質疑]

<馬場委員>

（財）日本サッカー協会のスタジアム標準には、広域立地条件として、試合開

催時には数万人規模の人が集中することが記載されている。スタジアム建設予定地は、追分町や向嶋団地からわずか100メートル程度に接近しており、騒音、光の問題、交通渋滞についてどう考えるか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

スタジアム標準では、騒音、振動、光害について、設計の中で十分配慮し、調整を図ることとされており、京都府としては、これらについて設計の中で配慮していく。設計に基づいたシミュレーションを行い、生活環境基準を満たすような内容とするよう調整を図る。駐車場については、敷地内に関係車両の駐車場を設けるが、実際の運営の中で、車両の利用状況を勘案しながら、亀岡市と調整し、駐車場確保を検討していく。基本的な観客の交通手段は、JRを中心として考えることとしている。

<馬場委員>

住宅地に影響する騒音は、基準が定められている。照明の漏れに関して、実際の現場で計ることについてどう考えているのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

施設計画を基に、シミュレーションをしている。その内容に基づき、周辺的生活環境に合致するかをチェックしながら、施設構造を設計している。その上で、シミュレーションが正しいかどうかは、実施段階以降に確認することになる。基本的には、シミュレーションの中で判断できると考えている。

<馬場委員>

Jリーグは年間約20試合ある。試合のある日の渋滞対策や、試合のない日への対策について、京都府や亀岡市等の役割分担はどうするのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

基本的に試合開催時には、施設管理者と試合運営者の2者が対応していく。相談先としては、亀岡市である。また、地元自治会には了解を求めていく。

<明田委員>

亀岡では冬季に霧が出るが、天然芝を丈夫に生育できるのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

天然芝は将来にかけて維持管理していくものである。日本ではティフトン419という種類の芝生を使用されてきているが、昨年から耐陰性、耐寒性が強い新品種の芝が出てきている。霧の状況も含め、亀岡のスタジアムに最も適した天然芝で対応していきたい。

<明田委員>

十分研究していただきたい。

<石野委員>

観客にはJR利用を促すのか。京都府も亀岡市と協力して対応いただけるものなのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

全国的な事例をみても、スタジアムが必ず専用駐車場を持っているわけではない。民間の駐車場を利用されているところもある。スタジアム用地はJRの近くに位置しており、第一義的には公共交通機関を利用いただく。また、近隣からのバス輸送も計画していきたい。これをベースに考える。まずは利用者の動向を確認し、来場者の駐車場を確保できるかについて、検討していきたい。駅南近辺にはイオンや西友、保津川下りの駐車場もあるが、利用時

間の調整も必要となり、亀岡市とも連携を図りながら対応していきたい。

<三上委員>

他のスタジアムにおいて、関係者駐車場は100台で足りるのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

スタジアム標準に具体的な記載はないが、他のスタジアムの状況や日本サッカー協会等の情報によると、選手は大型バスで運営者の駐車場に入る。最も多いのは報道関係車両であり、中継車の大型バスのスペースを確保しなければならない。これらに対応するため、敷地内に約100台の駐車場を確保する。

<三上委員>

実際はJR等の利用はさほど多くないと聞いている。自家用車で来る人の駐車場については、京都府で検討していくのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

実態を把握しながら、有効な手段を京都府と亀岡市で検討していきたい。

<三上委員>

スタジアムまでの車の誘導について、京都府の考えはどうか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

市外からのルートについては、京都縦貫自動車道が中心となる。メインは亀岡インターチェンジであり、北部からは大井インターチェンジの利用が多いと考える。宇津根橋を経由し府道を使うルートが、市街地への流入を避けるルートだと考える。掲示や試合興行者の広報により対応していきたい。このようなことについては、亀岡市に相談していきたい。

<三上委員>

国道からの新しい道に関して、京都府の考えはどうか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

国道372号バイパスの計画について、亀岡市から要望されていることは承知している。

<三上委員>

府道なのか市道なのかの話は出ているのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

担当である京都府の建設交通部からは、ほ場整備されることとあわせ、メインルートをバイパスとして利用すること、また、接続部が府道もしくは国道であることを聞いている。

<齊藤委員>

亀岡の農産物、特産物を駅前の広場で販売することは可能であるのか。

<まちづくり推進部事業担当部長>

78メートルの市道を整備するので、にぎわいを創っていきたいと考えている。即答はできないが、何らかの手法を考えていきたい。

<京都府スポーツ施設整備課長>

恒常的に施設を設けて、飲食物を販売することは基本的には難しいが、スタジアムの敷地内にケータリングカーを入れていくことは考えていきたい。北側広場の2000平方メートルを活用することは、運営事業者で対応できるものであり、協力して実施していきたい。

<福井委員>

京都スタジアム（仮称）は、サッカー以外にラグビーやアメリカンフットボールを競技できるのか確認したい。

<京都府スポーツ施設整備課長>

京都スタジアム（仮称）は、サッカー専用スタジアムではない。球技専用であり、球技とはラグビー、アメリカンフットボール、サッカーである。今のフィールドの長手の寸法は126メートルであり、競技以外の部分は3メートルずつしかない。日本ラグビー協会にも確認しているが、フィールドを96メートルとして使用すれば、国際試合でも十分競技できるとのことであった。地元の方には、サッカー以外にも使用できると説明していただきたい。

<福井委員>

他のスタジアムでは、少年サッカー等で年間98試合ほど使用されている所もある。少年サッカーの決勝戦にも使用されるのか、京都府としてのポリシーを聞きたい。

<京都府スポーツ施設整備課長>

プロの試合を見てもらえることに加え、市民、府民が、ひとつの目標の場所として利用できることも念頭においている。アマチュアの人たちも使ってもらえる場所にしたい。芝の管理については、新しい芝を選定し、芝の状況を見ながら運営することも考えていきたい。他所では指定管理者から造園業者等への委託が多いが、このスタジアムでは、管理者自らがフィールドを管理することを考えていく。これにより、利用日数が増えるようにしていきたい。

<福井委員>

確認がとれてよかったと考える。今後もよろしくお願ひしたい。

<明田委員>

完成予定はいつなのか。

<京都府文化スポーツ部理事>

2020年の東京オリンピックの前年に完成させたいと考えている。

<馬場委員>

亀岡市では景観条例を制定しており、周囲の山並みが見渡せることが魅力である。スタジアムは、木造であれば9階建て、鉄筋コンクリート建てであれば7、8階建てとなる。近隣で一番高いのは保津川団地の5階建てであり、高さは17メートルから18メートルである。亀岡市街からは何も見渡せないが、どのように考えられているのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

亀岡駅南側には、イオンや8階から9階建てのマンションがある。それとほぼ同じくらいの高さになると考える。スタジアムが極端に高いという認識はない。

<馬場委員>

高いだけでなく、幅も27メートル程度となるがどうか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

見る方向によって景観は変わるが、どの方向から見ても山並みと調和するような稜線を持たせるように考えている。スタジアムに近い場所では、山並みは見えないが遠景からの眺望については配慮できると考えている。

<馬場委員>

京都府の地下水流に関する調査では、基礎杭を720本打って構造物を支え

ることについては、大きな影響はないとされている。私の独断であるが、水平方向だけしかみておらず、垂直方向からの加重を何も分析されていないと考えている。水は西側から東側に向かって、アユモドキが越冬する場所に流れ着くので、影響があるのではないか。

<京都府文化スポーツ部理事>

スタジアムの基礎構造物が、アユモドキが越冬するエリアに影響するかどうかについて、実際に現場の風水試験から得られたシミュレーションに基づくデータにより解析した。これを1月22日と2月2日の環境保全専門家会議に提出した。水位の変化がないことに関しては、環境保全専門家会議も問題ないとされている。湧水がどのくらい影響するかについて、20メートルメッシュで区切り調査したが、影響は1パーセント以下の範囲であった。5メートルメッシュではどうなるのかについては、現在解析を進めており、次の環境保全専門家会議で説明する。水質についても解析を進めるが、スタジアム建設により杭を打つことについて、水質に影響はないと考えており、環境保全専門家会議で説明していきたい。

<馬場委員>

当初の計画用地は市民の水道水源であり、第一帯水層から第三帯水層まで、詳細な地質調査が行われている。現用地について、沖積層の分析も含めて、調査されているのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

現用地については、杭を使用することとしており、沖積層、洪積層を含めた調査は実施している。第一帯水層の地下水の状況についても把握している。

<馬場委員>

吹田サッカースタジアムは4万人規模で、公費が100億円前後であった。京都府のスタジアムは公費が約150億円とされているが、どのように考えるのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

吹田サッカースタジアムは、民間が主導し募金を約140億円を集められ建設された後、吹田市に寄贈されたものである。民間による施設のため、例えば天井がない等の状況がある。官庁が造る建物の標準的な仕様は、ある程度満足させる必要があり、民間が造る施設とは違ってくると考えている。

<馬場委員>

具体的にどのように工法が違うのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

例えば、配管が露出されたままになっていたり、非常階段も内装されていない状況がある。人目に触れる所はある程度手をかけられているが、目につかない所はグレードを落とされていると聞いている。どこまで求めていくかということはあるが、費用は当然変わってくると考えている。

<三上委員>

アメリカンフットボールは競技できるのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

アメリカンフットボールについても十分対応できる。関西の競技団体に協議し、この規模で試合ができることを確認している。

<三上委員>

フィールドボール対策のネットは、競技団体に準備されるのか、施設として必要なものであり準備されるのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

アマチュアのアメリカンフットボールの応援団は、主にメインスタンド及びバックスタンドに入ると聞いており、観客席への防御施設は必要ないと考えている。

<三上委員>

フィールドと最前列との高低差は1.2メートルとのことであるが、ラグビーと兼用になっているところはあるのか。

<京都府スポーツ施設整備課長>

今年、こけら落としされた、北九州のスタジアムはラグビーと兼用されている。フィールドの高さもそれほど高低差のないスタジアムである。

<三上委員>

亀岡市民に対しての市民説明会を実施する考えはあるのか。

<京都府文化スポーツ部理事>

昨年11月に亀岡市と市民説明会を実施した。その時にも、また説明会を開催すると説明している。設計の内容について、説明する必要があると考えており、また、騒音、振動、照明についても、解析ができた段階で亀岡市と調整して対応していきたい。

<木曾委員長>

亀岡市にとっても重要な案件であり、京都府と連携を密にしていかなければならない。これからも必要な内容が出てくれば、特別委員会に来ていただき、説明いただきたいと考えている。

—了—

15 : 19